

「飛翔」

1年 泉 哲也

「飛翔」という、総科学部内紙がある。みんな知っているのだろうか。どういうわけか、私はその編集委員にならされてしまった。「冗談じゃない。忙しいのに、こんな「毒にも薬にもならない」学部内紙に関わってられるか。」というのが、本音である。

私を除く編集委員は、みんなまじめである。「飛翔」における「不肖」の編集委員は、私だけのようである。しかし、私以外の編集委員が熱心に仕事しているのを、私は、妙に醒めた目で見てしまう。どうしても、没入していくことができないのである。「学部を骨を埋める」という言葉を耳にしたことがある。それは、別に悪いことだとは思わないのだがサークル活動等で時間をとられず、活動の場を専ら学部内と定めている人を対象とした言葉であろう。

総科というところは、たしかに、他学部がない、得がたい雰囲気を持っていると思う。しかし、妙な連帯感で個人を束縛するきらいがあるのも事実である。一見、総科は自由で、そこにいる学生ものびのびとやっているような印象を受けるが、人によっては、また、時によっては、その雰囲気が重荷になることもある。すなわち、個人が、学部のわくを外れて、飛び出すことが難しいのである。

話を「飛翔」の方に戻そう。以前、こんな会話を耳にした。「私は飛翔の編集委員」「ヒショウ？あ、そう言えば、そんなのもあったな」何たる認識の低さだろう。しかし、考えてみれば、これは、当然の反応かもしれない。年5回にも満たない発行回数（何も回数をやたら多く出せばよい、というものではないが、少ない発行回数が、印象を薄くしているのも、事実である）、加えて、どこでどうすれば手に入るのかわからないという、入手システムのまずさ。そして、何よりも、読者を引きつけるだけの内容に乏しいということがある。少し、きびしい見方をすれば、月並なことを書いて、編集委員の自己満足に終始し、完成した、さして素晴らしいとも言えぬ印刷物の山を見て、編集上の苦労を確認したら終わり、という、何ともむなしさをやっている、とも言える。私のこの原稿にしても、活字になること

はあるかもしれないが、多くの人の目に触れることはないのではないかと思う。（それがわかっているのにこれを書いているのは、私もまた、自己満足に没入するために書いているということになるのか。）

私が、読者としての立場に立ったとすると、やはり、面倒くさくなって、「飛翔」など読まないのではないかと思う。「飛翔」などあってもなくても同じと思っている人は多いであろう。実は、ある教授が「飛翔」やめちまえ、と思っている。」という、発言をされたことがある。学生間だけでなく、教授間にも、『「飛翔」不必要論』はあるらしい。

しかし、本来ならば、「飛翔」は重要な働きをしなければならないはずである。積極的に問題提起をし、情報提供を行なう。学生と学校側を結ぶパイプラインにもならねばならない。このような働きが、現実には、なされていないことが問題なのである。印刷過程上の問題で、どうしても、同時性、即報性がない、というハンディはあるが、その分、内容を充実させて、「飛翔」本来の働きをさせることが必要である。

月並なことを書いてしまったが、生まれて間もない総科が、その将来を期待されるように、「飛翔」の今後に期待する。総科と「飛翔」の結びつきも、もっとしっかりする必要があると思う。編集委員の側だけが熱意を持っていて、その熱意が学生の側には伝わらない、というのは、さびしいことであるし、「飛翔」が金を食うだけの無用の長物のまま終わってしまっては何にもならない。

END

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 大学・研究所めぐり ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

その1

— Lund 大学遺伝学研究所 —

自然環境研究・教授

瀬川 道 治

Sweden の南端部に位置する Lund 大学の一角、静かな環境の中に遺伝学研究所がある。ここには現在も立派な研究者がいるが、今までにも多くのすぐれた遺伝学者が育った。

ヒトの染色体数を決定した A. Levan, 植物遺伝学者であり世界的な遺伝学雑誌 Hereditas の編集を続けている A. Müntzing, 動物染色体研究の G. Levan, 植物遺伝学者の A. Gustaffson, 染色体 Band 研究の K. Fredga らが活躍中である。

また、ここで研究した人のうち J. H. Tjio (染色

体研究), T. Caspersson (核酸研究), B. A. Kihlman (環境変異原研究), A. Lima - de - Faria (核酸研究), W. W. Nichols (ビールスと染色体異常の関係の研究) らは有名である。

(写真説明: 研究所正面, 四階が図書室で講堂, 動物飼育室, 圃場, 温室等は本館の裏にある。)



「就職委員会だより」

厚生補導係・主任

牧 野 央

この原稿を書いている現在、国家公務員上級職を始め、裁判所職員、労働基準監督官、税務専門官や地方公務員上級職の試験が終了して、一次の発表が行なわれている。また教員採用試験も終了し、一次の発表待ちで、それぞれ受験した人は一段落というところ？

今年の地方公務員試験、教員採用試験の日程は、7月下旬に集中され、あまり多く重複しての受験が出来なくなっている。

また、私学の教員については、各県で、私学連によって統一試験を行なう所が多く、受付けは、10月頃に行われるので注意しておくこと。

一般企業については、例年通り、8月16日企業より求人票の発送、9月14日学生に対し掲示、10月1日以降会社訪問、11月1日以降試験、という日程で行なわれる。

一般企業に就職を希望する学生は、指導教官・各コースの就職委員教官と相談し、企業研究を行ない、

この飛翔が発行される頃には、最後の話をし、厚生補導係と連絡を密にするよう心掛けてほしい。

また現在厚生補導係に提出されている、進路調査カードを見ると、まだ進路、特に就職については公務員、教員、企業の選択が出来ず、友達が記入したので、というのもあり、また一般企業の会社名においては、あくまでも希望的なもので、業種など問題なく、ただ知名度の高いのを羅列しているが、意志が決定した時点において、厚生補導係に連絡してほしい。

また、就職に対する専門の考え方もあまく、企業就職、即専門職の考えが多い。(入社後すぐ専門的な仕事でないと云って退職した人もいる。)なお専門に対する、資格試験があるものは、出来るだけ取得するよう努力することが望ましい。このような事があるので、就職に対する準備は3年次に始めるとよい。

一般企業については、10月1日以降の会社訪問に対し、9月に志望企業を決定、あらかじめ訪問日程を作成し、それによって行動する、企業によっては即面接の所も多々あるので、服装には注意しておく。(昨年面接時にジーンズで行った人は即刻断わられた。)また面接で、急な呼出しがあるので、いつも対処出来るよう連絡先を明確にしておくこと。

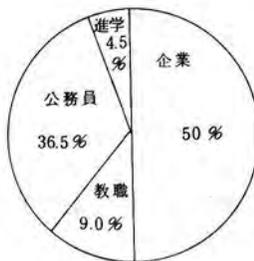
面接時に学部に対する質問、卒論・志望動機・学生生活等々の質問に対し明朗、的確に答える。また5,6人で討論する時もある。以上の事をえて、11月の受験となり、11月中旬決定の運びとなる。

なお、公務員、教員志望の人は10月以後1月頃に採用名簿登載、決定は2,3月頃になるが、名簿登載、即採用ではないから安心してはおれない。また就職しても、特に企業の場合、一年以内で退職すると、後輩に迷惑がかかるので、絶対に退職しないように

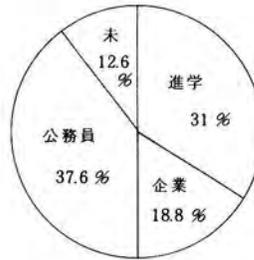
地域文化



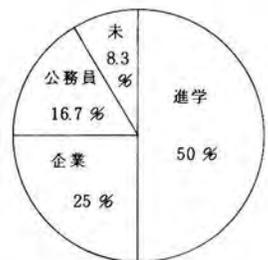
社会文化



情報



環境



してほしい。

今までの例だが、総合科学部に来ている求人について、受験すれば、即採用と思いついでいる者が多く、不採用になったと不平を云う人もいたが、就職に対し、本人の努力と気迫をもって、挑んでもらいたい。なお、公務員、教員においては、受験した所、また結果を、一般企業においては、訪問先と結果を逐次、厚生補導係に連絡することをお願いします。

最後に50年度生の進路について記しておく。

民間企業名

- | | |
|------------|--------------|
| 地域文化 | 社会文化 |
| ・親和銀行 | ・内田洋行 |
| ・広島相互銀行 | ・片岡物産 |
| ・愛媛信用金庫 | ・東食 |
| ・大塚グループ | ・住金物産 |
| ・日本航空 | ・三菱商事 |
| ・中国放送 | ・十和 |
| ・YMCA | ・国際コミュニケーション |
| ・タカキペーカリー | ・シャープ |
| ・メガネの田中 | ・山陽コカ・コーラー |
| ・日本ハモンド | ・日本電装 |
| ・第1学習社 | ・大塚グループ |
| ・山陽コカ・コーラー | ・日本国有鉄道 |
| ・和歌山農協 | |
| ・大阪有線 | |
| ・アンピック外語学院 | |

情報行動科学

- ・東京芝浦電気
- ・不二家
- ・リコー教育機器

環境科学

- ・神戸製鋼
- ・ミサワホーム
- ・日特建設
- ・日本I.B.M.
- ・宅地開発公団
- ・純正食品コダマ